

JANOG43 参加レポート

東京工業大学 工学院情報通信系 修士1年
宮 太地

1. 全体的な感想

JANOGは今回が初参加で、ネットワークの知識や技能もまだまだ未熟なため、十分に理解できないセッションが多くあった。企業ブースも一通り見て回り、特にさくらインターネットさんの展示されていたIoTデバイス向けLTEモジュールは、実物を見るのが初めてで大変興味深かった。初日の支援者交流会、2日目の懇親会では多くの方と名刺交換させていただいたほか、外資系の転職話などお酒の席ならではのラフな質問ができて、自分のキャリアプランが定まらず悩んでいるいま非常に有意義な時間となった。セッションの合間にも何度か名刺交換させていただく機会があり、JANOG経由で知り合えた人の数に驚いている。

2. 印象に残ったプログラム

初日最初のセッション「SRv6最前線」特に「SR: simple & complete IP solution」は貴重な講演だった。SRの技術概要は知っているつもりだが、その根底に流れている哲学、設計思想がわからない。調べても文献が見つからないため、できることならその点を伺えると嬉しかった。

2日目のSP「Gitベースなオペレーション高度化」では、ネットワーク機器管理におけるCI/CDとChatOpsの応用例が提示された。折しも研究室インフラで同様のシステムを構想していたため、エンタープライズにおける実運用例ということで興味深く聴講した。「LINEのネットワークをゼロから再設計した話」は、残念ながら技術的な理解は遠く及ばなかったが、スライドの見せ方が美しく、また対象とするネットワークの大規模さにShowNetに似た高揚感を覚え非常に引き込まれた。

3日目はLTの「NETCONFを転用して、設定ファイルエディターをつくる話」で紹介されたハックが実践的でぜひ試してみようと思ったほか、「IETF技術文書をざっくり理解するためには」も大変勉強になった。IETF文書はプロトコル理解を深める目的でよく目を通すが、プレゼン資料が動画付きで公開されているとは知らなかった。また「災害対策と今後」は、被災時のインフラの話をもっと具体的に伺う機会が初めてで印象深く、ガソリン携行缶やころがし配線など泥の臭い漂うスライドになっており、インフラエンジニアの領分の広さ、責任の重さを再認識させられた。

3. その他

JANOGとNANOGのメーリングリストを2年ほど購読している。NANOGでは、オペレータの連絡先照会や初心者質問に始まり、ピアリングや経路ハイジャックなど高度に専門的な話題に至るまで、毎晩活発にメールが飛び交い、スレッドを追うだけで好奇心が刺激される。一方のJANOGは、技術的な話題も流れてはいるが、割合としては何らかのイベント告知が大きく占め、ともすればニュースレターとなりがちな状況である。Slackも同様だ。JANOGは規模が拡大傾向にあるとの報告で、たしかに懇親会の盛況には目を見張るものがあり、であるからこそMLやSlackの冷え方を一層残念に思った。

エンジニアが日頃から前線の技術ネタを投下している場、議論を交わしている場は、そのメディアが何であれ個人的に垂涎ものであったし、学部時代からずっと探してきた。もしJANOGがオンラインでも十分に活発で、もしそこで学生などの非エンジニアが初心者質問を投げられるような雰囲気が醸成されていれば、それは何よりの若者支援になったのではないか。

あと1年で学生を終え、自分はインフラエンジニアとして職を得るつもりだ。そのときはきっと、初学者が入りやすい環境となるよう、所属するコミュニティの運営にも気を遣っていきたい。